

エコアクション21

環境経営レポート

2023年度版

(運用期間:2022年 10月～2023年9月)



発行日:2023年11月15日

株式会社 真 鍋 組

目 次

1. 組織の概要	1
2. 認証・登録の対象範囲	1
3. 環境経営方針	2
4. 環境経営目標	3
5. 環境経営計画	4
6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容	5
7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果と その評価の実績、並びに次年度の取組	9
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価 の結果、並びに違反、訴訟等の有無	11
9. 代表者による全体評価と見直しの結果	11

1.組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
株式会社 真鍋組
代表取締役 真鍋 卓見
- (2) 所在地
本社
〒811-3438 福岡県宗像市和歌美台1-1
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
総務経理担当
TEL 0940-36-2251/ FAX 0940-36-4124
E-mail : manabe.g@sirius.ocn.ne.jp
- (4) 事業内容
建設業（土木一式工事）
法人設立年月日 1958年6月1日
- (5) 事業の規模等
- | | | |
|------|-----------|----------|
| 資本金 | 2,000万円 | |
| 売上げ額 | 116,373万円 | （2022年度） |
| 従業員数 | 7名 | |
| 延床面積 | 100㎡ | |
- (6) 事業年度 6月～翌5月

2. 対象範囲（認証・登録の対象組織・活動）

- (1) 対象事業所
本社
- (2) 対象活動
建設業（土木一式工事）
- (3) 対象外組織・活動
なし（全組織・全活動を対象とする）

3.環境経営方針

<環境経営理念>

私たち、株式会社真鍋組は『環境保全』を経営理念として掲げ、建設工事会社として、人と自然が共生できる地域環境づくりに取り組んで参ります。

今、私たちは、こうした事業活動に伴うエネルギーや資材の使用が地域及び地球の環境に影響を与えていることを十分に自覚し、経営の柱に「環境保全」を位置づけ、全社をあげて環境経営に積極的に取り組み、持続可能な社会づくりに貢献して参ります。

<環境行動指針>

当社の環境理念に基づき深刻化する環境問題への対応を最重要課題とし、この事業活動に於いて環境への影響を抑制し、環境負荷の削減等を推進するために以下の事項について自主的、積極的、継続的に取り組みます。

1. 当社の事業に関連する環境関連法規等を遵守します。

2. 当社は次の項目を重点項目として、環境活動を計画的に取組みます。

(1) 電力、燃料等のエネルギーの効率的な使用及び省エネに努め、二酸化炭素の排出量を削減します。

(2) 廃棄物排出量の発生抑制とリサイクルを推進します。

(3) 節水に努め、水使用量を削減します。

(4) 自社施工の土木建築物等の環境性能の向上に努力します。

(5) 地域貢献活動を推進します。

3. 当社の毎年の環境への取り組み状況を環境経営レポートにとりまとめ、全社員に周知させ一般にも公表します。



制定日 2020年10月1日

株式会社 真鍋組

代表取締役 真鍋 卓見

4.環境経営目標

環境目標	サイト区分	単位	基準年 2022年度 実績値	目標 *1			
				2023年度 (1%削減)	2024年度 (2%削減)	2025年度 (3%削減)	2026年度 (4%削減)
1. 二酸化炭素排出量の削減	全社	kg-CO ₂	46,886	46,417	45,948	45,479	45,011
①電気使用量の削減 *2	事務所	kWh	3,176	3,144	3,112	3,081	3,049
	現場 *3	kWh	872	863	855	846	837
②ガソリン使用量の削減	事務所	ℓ	3,602	3,566	3,530	3,494	3,458
③軽油使用量の削減	現場	ℓ	14,351	14,207	14,064	13,920	13,777
2. 廃棄物排出量の削減							
①一般廃棄物排出量の削減 *4	事務所	kg	373	369	366	362	358
②産業廃棄物リサイクル率の維持	現場	% (リサイクル率)	100	90	90	90	90
3. 水使用量の削減	事務所	m ³	282	279	276	274	271
4. 地域貢献活動の推進	事務所	回数 (清掃回数)	4	4	4	4	4
5. 本業における環境配慮の推進							
①環境配慮型重機の調達	現場	% (調達現場割合)	75	75	75	75	75
②工事評価点の維持	現場	平均点数	75	75	75	75	75

*1 EA21年度は、10月～9月とする。

*2 購入電力のCO₂排出係数は、九州電力の調整後排出係数0.370kg-CO₂/kWh(2019年 九電HP)による。

*3 2022年度は現場の電力使用がなかったため、前回の目標値(2019年度実績)を継続する。

*4 一般廃棄物排出量の削減は、2021年度実績(335kg/年)を基準値に毎年1%削減を目標に、2022年度から取り組む

5. 環境経営計画

1. 二酸化炭素排出量の削減

取組目標	サイト区分	責任者	達成手段	担当者	スケジュール
①電気使用量1%の削減	事務所	真鍋 日	1. 本社事務所の室温は、冷房期28℃、暖房期20℃とし、エアコンで調節する	諏訪田	冷房期：5～9月 暖房期：11～3月
			2. 不要な照明の消灯・夜間の主電源OFF	社長	通年
	現場	真鍋雄	1. 現場事務所等の室温は、冷房期28℃、暖房期20℃とし、エアコンで調節する	真鍋 雄	冷房期：5～9月 暖房期：11～3月
			2. 不要な照明の消灯・夜間の主電源OFF	真鍋 雄	通年
②ガソリン使用量1%の削減	事務所	社長	1. 急減速、急加速、無駄なアイドリングはさける	諏訪田	通年
			2. 不用品を車両から降ろして整理整頓・掃除	諏訪田	通年
③軽油使用量1%の削減	現場	真鍋雄	1. 急減速、急加速、無駄なアイドリングはさける	真鍋 雄	通年
			2. 建設機械の回転数の適正化	真鍋 雄	通年

2. 廃棄物排出量の削減

取組目標	サイト区分	責任者	達成手段	担当者	スケジュール
①一般廃棄物排出量の削減	事務所	真鍋 日	1. 資源ごみと燃えるごみを分別して重量を計測し記録する	諏訪田	通年
			2. 裏紙使用を徹底し、コピー用紙の使用量を削減する	諏訪田	通年
②産業廃棄物のリサイクル率の維持（リサイクル率90%）	現場	社長	1. 現場における廃棄物の分別徹底	真鍋 雄	通年
			2. 現場代理人はマニフェストの管理を確実にを行う	真鍋 雄	通年

3. 水使用量の削減

取組目標	サイト区分	責任者	達成手段	担当者	スケジュール
①水使用量の1%削減	事務所	真鍋 日	1. 日常の節水・漏水の点検	諏訪田	通年
	現場	真鍋雄	1. 節水の励行・洗車は必要最小限とする	諏訪田	通年

4. 地域貢献活動の推進

取組目標	サイト区分	責任者	達成手段	担当者	スケジュール
①地域貢献活動の推進	事務所	社長	1. 事務所周辺の清掃活動（1回/月）	真鍋 雄	通年
			2. 地域の環境保全活動への参加	真鍋 雄	通年

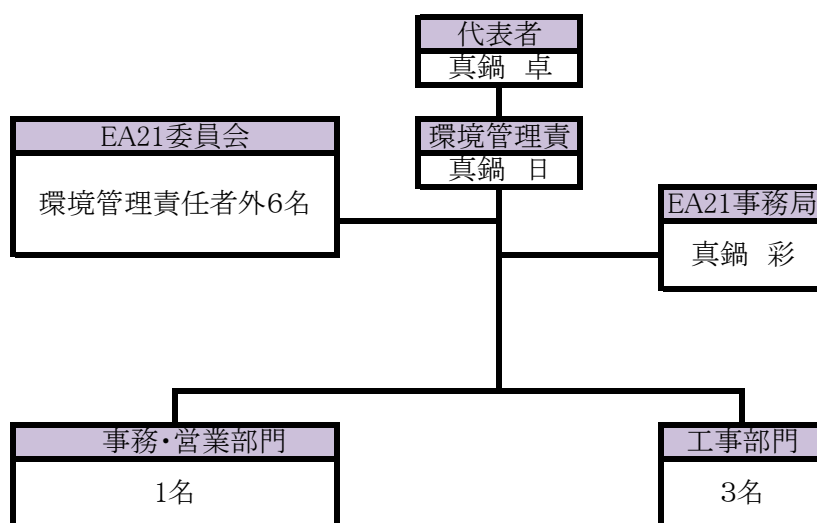
5. 本業における環境配慮の推進

取組目標	サイト区分	責任者	達成手段	担当者	スケジュール
①環境配慮型重機の調達	現場	社長	1. 現場規模に対応した重機の調達	真鍋 雄	通年
			2. 低騒音・排ガス規制対応型重機の調達	真鍋 雄	通年
②工事評価点の維持	現場	社長	1. 現場に配慮した施工方法の提案	真鍋 雄	通年
			2. 技術者の能力向上（有資格者の増加）	真鍋 雄	通年
			3. 技術者の知識向上（知識向上研修会等への参加）	真鍋 雄	通年

6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

・2023年度に当社が実施した環境への取組は、以下のとおりです。
尚、実施に当たっては、社内に次のような実施体制を構築して、全社員が一丸となって実施しました。

(1) エコアクション21実施体制



役割分担表

所 属	役割・責任・権限
代表者	代表者として環境経営全般について責任と権限を持つ 環境方針を作成・見直し、従業員に周知する 環境管理責任者、EA21事務局員を任命する 環境への取組を実施するための資源(人・もの・金)を準備する EA21全体の取組状況に関し評価、見直しを実施する
環境管理責任者	EA21ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築し、実行し、環境実績を向上させる。 毎年、環境目標、環境活動計画を作成する。 取組状況の確認・評価のために、毎月EA21委員会を開催する。 上記の結果を代表者に報告する。
EA21委員会	毎月1回開催し、環境経営目標及び環境経営活動計画の取組状況を確認する。 ・3カ月毎にその間の取組状況を評価し、必要に応じて問題点の是正処置を検討する。
EA21事務局	環境管理責任者を補佐し、EA21文書及び記録類、及び基礎データの作成・維持・集計・管理を行う 社外からの環境情報の収集と伝達を行う
部門長	環境方針、環境目標、環境活動計画を部門全員に周知する 環境目標達成のため、責任を持って自部門の環境活動を推進する 自部門で発生した問題点の是正処置、予防処置を実施する 自部門に関連する法規制等を順守する 自部門に関連する緊急事態への準備及び対応の訓練を実施する 自部門の教育・訓練を実施する
全従業員	環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚する 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する

(2) 2023年度に実施した環境への取組

環境負荷を削減する取組



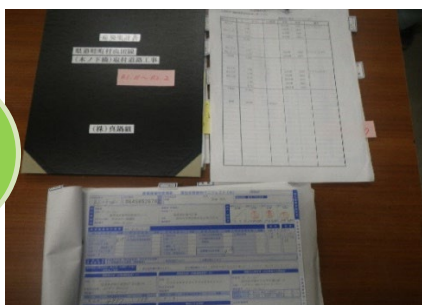
CO2削減



環境負荷を削減する取組



ごみ減量



水の減量



環境を良くする取組



環境共生



地域共生

防火訓練



7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組 結果とその評価の実績、並びに次年度の取組

(1) 環境経営目標の実績

2023年度の環境経営目標達成状況は以下の結果となりました。

- ・事務所の電気使用量が減少した要因は、残業の削減・休日の増加などが考えられます。現場では、河川工事における水中ポンプを稼働させた事で電気使用量は増加しましたが、施工内容によっては致し方無いと考えます。
- ・ガソリン使用量は、現場への乗り入れ等利用で増加しましたが、トラック・重機等の利用が少なく、軽油の使用量は減少しております。次年度もエコ運転を心がけ、取組みを継続していきます。
- ・一般廃棄物の削減につきましては、資料のデータ化などの取組みを全社員で実践しました。特に熱中症対策で増えたペットボトルや缶など、必ず各現場から持ち帰り、公共のリサイクル施設へ搬入致しました。
- ・水使用量の削減については、夏場の植栽管理などで使用量は増えてましたが、ミストクーラなどで節水の工夫をするとともに、雨水タンクを多いに活用しました。
- ・地域貢献活動の推進は、地域の除草活動も継続的に続けており、今後も明るい住みやすい街づくりに貢献したいと考えます。
- ・本業における環境配慮については、環境配慮型重機の調達・工事評価点の向上ともに 達成できました。次年度も積極的に取り組んで参ります。

代表取締役 真鍋 卓見	サイト 区分	単位	2023年度 (2022年10月～2023年9月)		目標 達成率 ※2	目標 達成評価 ※3
			目標※1	実績		
1. 二酸化炭素排出量の削減	全社	kg-CO ₂	46,417	28,337	164%	◎
①電気使用量削減	事務所	kWh	3,144	2,498	126%	◎
	現場	kWh	863	1,668	52%	×
②ガソリン使用量削減	事務所	ℓ	3,566	3,695	97%	△
③軽油使用量削減	全社	ℓ	14,207	7,061	201%	◎
2. 廃棄物排出量の削減						
①一般廃棄物排出量の削減	事務所	kg	369	382	97%	△
②産業廃棄物リサイクル率の維持	現場	% (リサイクル率)	90	100	111%	○
3. 水使用量の削減	事務所	m ³	279	273	102%	○
4. 地域貢献の推進	事務所	回数	4	4	100%	○
5. 本業における環境配慮の推進						
①環境配慮型重機の調達	現場	%	75	100	133%	◎
②工事評価点の維持	現場	平均	75	85	113%	○

備考) ※1 目標値は基準年(2022年度)の同期間実績値から削減率を乗じて設定した。

※2 目標達成率の計算 目標÷実績×100(削減目標の場合)、実績÷目標×100(増加目標の場合)

※3 評価区分◎: 目標達成率≥120% ○: 100%≤達成率<120% △: 90%≤達成率<100% ×: 達成率<90%

※4 一般廃棄物排出量の削減は、2021年度実績(335kg/年)を基準値に毎年1%削減を目標に、2022年度から取り組む

※5 購入電力のCO₂排出係数は、九州電力の調整後排出係数0.370kg-CO₂/kWh(2019年 九電HP)による。

(2) 環境経営計画の実施・取組結果とその評価

・2023年度の環境経営計画の実施状況は以下のとおりであり、設定したほとんどの項目で取組が実施できた。

1. 二酸化炭素排出量の削減

活動項目	区分	達成状況	達成手段	実施状況	評価
①電気使用量の削減	事務所	◎	1. 本社事務所の室温は、冷房期28℃、暖房期20℃とし、エアコンで調節する	○	<現状> ・現場の電気使用量の増加は河川の井堰工事に伴うもので、水中ポンプの使用が求められ増加した。また、軽油は重機工事が少なかったので大幅に減少した。 <次年度> ・工種によっては大きく変化するが、現在の取り組みは継続する。
			2. 不要な照明の消灯・夜間の主電源OFF	○	
	現場	×	1. 現場事務所等の室温は、冷房期28℃、暖房期20℃とし、エアコンで調節する	○	
			2. 不要な照明の消灯・夜間の主電源OFF	○	
②ガソリン使用量の削減	事務所	△	1. 急減速、急加速、無駄なアイドリングはさける	○	
			2. 不用品を車両から降ろして整理整頓・掃除	○	
③軽油使用量の削減	全社	◎	1. 急減速、急加速、無駄なアイドリングはさける	○	
			2. 現場規模に合った重機を使用する	○	
			3. 建設機械の回転数の適正化	○	

実施状況判定区分 ◎：よく実施されている（定着状態） ○：実施されている △：ほぼ実施されている
 ×：実施されていない ー：判定不可

2. 廃棄物排出量の削減

活動項目	区分	達成状況	達成手段	実施状況	評価
①一般廃棄物排出量の削減	事務所	△	1. 資源ごみと燃えるごみを分別して重量を計測し記録する	△	<現状> ・一般廃棄物は夏場の水分補給の為にペットボトルが増加したが、洗浄しリサイクルセンターへ搬入した。
			2. 裏紙使用を徹底し、コピー用紙の使用量を削減する	○	
②産業廃棄物のリサイクル率の維持	現場	○	1. 現場における廃棄物の分別徹底	○	<次年度> ・可燃ごみについては、今後も一層データ化の促進に務める。
			2. 現場代理人は manifests の管理を確実に行う	○	

3. 水使用量の削減

活動項目	区分	達成状況	達成手段	実施状況	評価
①水使用量の削減	事務所	○	1. 日常の節水・漏水の点検	△	<現状> ・猛暑が続く植栽への水使用量が増加している。 <次年度> ・ガーデニングミストクーラなどを利用し、節水の工夫を心がける。
	現場	○	2. 節水の励行・洗車は雨水利用とする	○	

4. 地域貢献活動の推進

活動項目	区分	達成状況	達成手段	実施状況	評価
①地域貢献活動の推進	事務所	○	1. 事務所周辺の清掃活動（1回/月）	○	<現状> ・清掃活動は定期的に行われた。 <次年度> ・今後も取組継続。
		○	2. 地域の環境保全活動への参加	○	

5. 本業に係わる目標

活動項目	区分	達成状況	達成手段	実施状況	評価
①環境配慮型重機の調達	現場	◎	1. 現場規模に対応した重機の調達 2. 低騒音・排ガス規制対応型重機の調達	○ ○	<現状> ・工事評価点は高得点を頂いた。 <次年度> ・現在の取組継続する。
②工事評価点の維持	現場	○	1. 現場に配慮した施工方法の提案	○	
			2. 技術者の能力向上（有資格者の増加）	○	
			3. 技術者の知識向上（知識向上研修会等への参加）	○	

（３）次年度の取組

1)環境経営目標について

- ・環境経営目標については、現場の電気使用量・ガソリン使用量が未達成ですが受注した工事の施工内容で大きく変化するので、改めて現在の取り組みを継続・把握しながら安全に施工が行えるよう努力します。
- ・事務所の一般ごみ・資源ごみの削減及びリサイクルは継続して行います。
- ・電気使用量については、残業時間の減少、また休日の増加などで大幅に削減出来たと思われませんが、受注工事内容では変動も考えられます。（早朝・夜間工事など）
- ・次年度も「4. 環境経営目標」で設定した目標を適用します。

2)環境経営計画について

- ・環境経営目標の達成状況と環境経営計画の実施状況との関係から、目標未達成となった現場の電気使用量及びガソリン使用量は施工現場に則した実状であるため、次年度も現在の環境への対策・取組を全社員に周知徹底し、一層の省エネ活動を促進します。

- ・次年度も「5. 環境経営計画」に基づき継続していきます。

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

- ・当社の事業活動に適用される主な環境関連法規等は、以下のとおりです。
- ・当該年度の事業活動に対して、環境関連法規等の遵守状況を確認・評価した結果、全ての法律で遵守を確認し、違反はありませんでした。
- ・また、関係機関等からの違反の指摘、利害関係者からの訴訟も過去3年間ありませんでした。

適用される法規等	適用される事項(施設・物質・活動等)	評価
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物の管理・排出 マニフェストの交付・回収・保管の適正処理	○
建設リサイクル法	対象建設工事の届出 再資源化の実施	○
オフロード法	特定特殊自動車の使用の制限 基準適合表が付されたものの使用	○
自動車リサイクル法	使用済み自動車の引き渡し義務	○
家電リサイクル法	製品廃棄の際の適正な引渡、処理料金の支払い	—

備考) 評価区分 ○:遵守 ×:不遵守 —:該当なし

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

- ・代表者による取組状況の全体評価と、計画の見直しの必要性を検討しました。結果は、以下のとおりです。

(1)取組状況の全体評価

- ・環境への取組状況については、今期受注の工事は大型重機を利用した作業が少なく軽油の利用は減少しましたが、井堰工事では水中ポンプを多く利用したことで現場の電気代が大幅に増加しました。
- しかしながら、受注工事の施工内容によっては変動は致し方なく、次年度も環境に配慮しながら自社に則した取り組みを継続し安全な施工を心がけたいと考えます。
- ・一般廃棄物排出量につきましては、事務所内で搬出される資源ごみは熱中症対策水分補給用のペットボトルが増加しました。
- 洗浄後、地域のリサイクル施設へ搬入しております。健康に留意しつつ、ごみの削減に取り組んでいきます。
- ・快適な職場環境を確保しながら、二酸化炭素の排出量の削減取組を継続し、従業員に対して日常的に積極的なリサイクル活動と指導を図っていきます。

(2)見直しの結果

- ・今回の運用成績を踏まえて、環境経営方針、環境経営目標は次年度も継続しエコアクション21ガイドラインに合わせた取り組みを進めます。
- ・次年度も、全社員で協力し合い、改善・創意工夫を推し進め、積極的に環境負荷の低減と環境保全に取り組んでいきます。